

環境科学部 環境政策・計画学科

Department of ENVIRONMENTAL POLICY AND PLANNING

“環境”で鍛えたチカラは、社会のどこでも通用する。

問題を探せ。
答えを探すな。



様々なプログラムや体験が
世界と向き合うための知見を
広げてくれます。

ミャンマーで生まれ、3歳のときに日本へ。ニュースなどで途上国のいろんな問題に興味を持つようになりました。衛生環境と貧困とのかかわりが深いことを知り、廃棄物について学びたいと考え、たどり着いたのが滋賀県立大学です。受験前、東南アジアの国を巡ってこられた村上先生に直接アポイントを取ってお話を伺い、途上国の廃棄物に関わっていきたくないと確信を持てるようになりました。入学後は当学科ならではのフィールドワークをはじめ、環境政策学・社会学・経済学・統計学など多くの専門科目を学ぶことで、文系・理系の枠を超えた知識が身に付き、課題を様々な角度から検討できるようになったと考えています。2年続けて参加した海外交流プログラムでは、途上国の学生との交流やディスカッションなども経験。環境問題への認識も異なることを知り、同時にその地に適した解決策を考えることが最も重要であることを痛感しました。知識や経験を広げるべく大学院へ進学し、その後は海外ボランティアなど国際協力に携わりたくと考えています。

環境科学部 環境政策・計画学科3年生
向井 友理さん / 京都府立亀岡高等学校出身

◆アドミッションポリシー

環境政策・計画学科では、環境と調和した社会を形成するために、社会を形成している企業、政府、市民の行動を環境調和型に変革していく人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

求める学生像

- ①人間社会と自然環境の広い範囲にわたって関心を有する人（興味・関心・意欲）
- ②環境政策や環境計画を学ぶ上で必要な国語・数学・英語・理科・地歴公民の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ③見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人（思考力・判断力）

◆学びのポイント

身近な地域課題から地球規模の環境問題について、文系と理系の多様な視点から総合的に学ぶことを通して、“幅広い視野で物事の見通しを立てることができる人”を育てる学習プログラムにしています。例えば、1回生から専門知識を学べるほか、教員1名につき学生4人程度の少人数の授業が中心で、丁寧な指導を受けられます。また、3回生以降は研究を進めるための研究室や1人1台のパソコンなど、学習環境を整えています。これらによって4年間で一人一人が考える力や社会で求められるスキルを伸ばすことができます。このようなプログラムを通して、具体的な進路を自分自身で設計することができます。そのため、卒業生の進路は公務員、企業の環境部門、環境コンサルタント、起業家、NPO、政治家、研究者などバラエティーに富んでいます。

Point 1 文理を問わず幅広い視野から環境に挑みます

環境政策・計画に関わる科目は、文系と理系の幅広い分野にわたります。文理双方の専門知識と方法論を学ぶことで、実社会で求められる総合的な力が身につきます。

Point 2 現場で役立つ実践的スキルを習得します

卒業後、幅広い分野や職種で活躍するためのデータ分析、マネジメント、場のデザイン、コミュニケーション等、現場で役立つ実践的なスキルが身につきます。また、社会調査士やGIS学術士などの資格を取得できる授業もあります。

Point 3 自分自身で課題を設定し、解決策を提案します

現場でのフィールドワークや行政職員・地域住民などへのヒアリング調査を実践することで実社会の課題を把握します。卒業研究では課題を解決するために社会で役立つ新しい知見を提供します。

◆教員スタッフとその専門分野

- | | |
|----------------------------------|---|
| ● 井手 慎司 教授 水環境管理、土木環境システム、環境影響評価 | ● 林 宰司 准教授 環境経済学、環境政策論 |
| ● 香川 雄一 教授 人文地理学、環境地理学、都市社会地理学 | ● 村上 一真 准教授 開発経済学、環境経済学、行動経済学、地域経済・政策論 |
| ● 金谷 健 教授 廃棄物管理論 | ● 和田 有朗 准教授 環境政策、環境計画、環境システム、地域システム |
| ● 上河原 献二 教授 環境法・環境政策 | ● 白木 裕斗 講師 エネルギーシステム学、環境システム学 |
| ● 高橋 卓也 教授 環境経営、森林政策・計画、資源・環境経済 | ● 平岡 俊一 講師 市民参加・協働、NPO/NGO、環境社会学 |
| ● 瀧 健太郎 准教授 流域政策・計画学、水工学、応用生態工学 | ● 平山 奈央子 講師 湖沼流域ガバナンス、水資源管理、住民参加、意思決定手法 |

◆学びのステップ〈4年間の学習フロー〉

